

## ビデオ教材の活用について —自作ビデオ作成の試み—

A Study on Use of Visual Aids  
—An Approach to Make Films—

海老名 和 子

EBINA Kazuko

### I はじめに

現在、大学や教育課程の向上、改善を手助けすることを目的に自己点検・自己評価が実施されている。<sup>(1)</sup>平成14年度の本学の自己点検・自己評価では、大学の責務の二本柱のうちの一つである教育活動について行われ、平成15年度にも研究と併せ教育について自己点検・自己評価が行われた。大学では従来研究に重点が置かれていた傾向にあったが、昨今の少子化問題、学生の質の低下等大学を取り巻く環境の変化に伴い、大学における教育の質が大学選別のポイントになってくると考えられている。<sup>(2)</sup>また大学において特に教育の実を向上させるためには、まず教員が自らの教育に対して授業の改善を行うことが必須である<sup>(3)</sup>といわれている。そして医療・福祉の専門教育を行う本学では、限られた時間数の中で、学生に専門的技術も習得させなければならないのである。そのためには、かなり効果的な授業展開をしていかねばならない。

筆者の担当科目である予防的歯石除去実習では、各項目ごとに講義、基礎実習、(マニキン実習)、相互実習を行うという流れで授業を実施している。そして相互実習では、当然学生が患者役となるわけだが、二十歳前後の学生の口腔内状況は、健康な状態がほとんどである。そのため本来は病的な状況下で行う処置であるが学生は、臨床の場面で歯科衛生士が患者に行う処置を具体的にイメージしにくいと考えられる。したがって講義時にビデオ等の視聴覚メディアを利用することにより、学生は抽象的な概念から具体的把握が得られるのである。また現在はスケーリングなどの数mm単位の操作については、講義時に市販の操作ビデオを学生に見せている。しかし市販のビデオといっても歯科衛生士の専門的操作のビデオは、ほとんど皆無なのが現状である。そのため学生に少しでも講義の段階で操作、手順等の理解を深めてもらい効率的な授業を展開することを目的に自作ビデオを作成することとした。また併せて学生に視聴覚教材についての意識調査を実施し、今後の視聴覚教材の利用について検討したので報告する。

## II 方法

### 1 自作ビデオ作成

- ビデオ内容

今回は、説明に多くの時間を費やしている相互実習のガイダンスに使用するビデオを作成することとした。この相互実習ガイダンスは、予防的歯石除去実習だけではなく歯科衛生学科の他の授業での相互実習においても基本となるものである。制作したのは以下の項目である。

- (1)相互実習での実習動作（滅菌物の取り扱い動作、相互実習準備動作、相互実習後の片づけ動作、患者誘導・術者とアシスタントの動作）
- (2)共同動作（術者のスリーウェイシリンジ操作、アシスタントのバキューム操作）

- ビデオの活用

前期終了前9月に配付資料の説明後にビデオを見させる。その後教員のデモンストレーションを行い、相互で実習動作のロールプレイン、共同動作は、模型上で操作実習を行った。

### 2 アンケート調査

時期：平成16年1月

対象：歯科衛生学科1年生39人

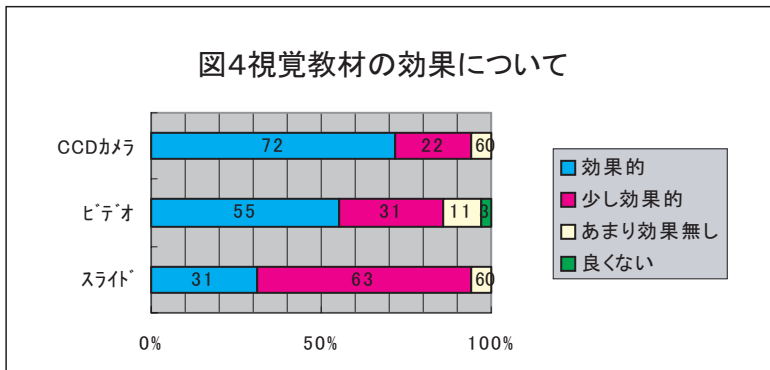
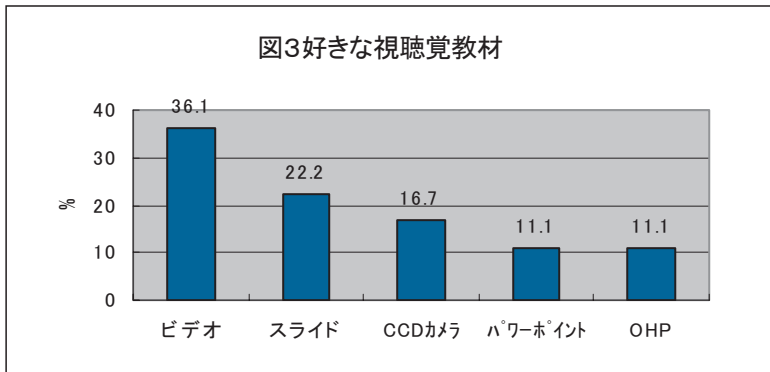
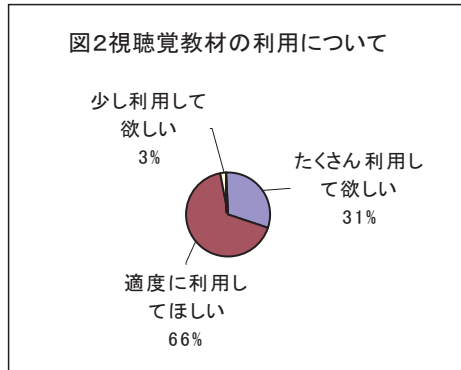
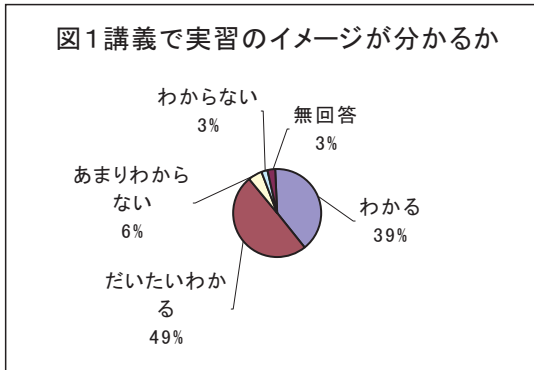
学生の視聴覚教材についての意識を把握し、今後の授業の参考にするために無記名方式で「視聴覚教材について」のアンケート調査を実施した。

## III 結果

学生へのアンケート調査の結果について

予防的歯石除去実習の講義では、資料（一部記述式）、教科書、板書を主に利用している。そして一部ビデオ、スライドを活用している。この現状を踏まえて、「講義で実習のイメージが分かるか」という質問に対しては、分かるが39%、だいたいわかるが49%であり、おおむね理解できているようである（図1参照）。

次に「視聴覚教材の利用について」の質問では、沢山利用して欲しいと回答したのは31%で、最も多かったのは適度に利用して欲しい66%であった（図2参照）。また学生の「好きな視聴覚教材」の質問では、ビデオをあげた学生が最も多く36.1%であり、ついでスライドが22.2%、CCDカメラが16.7%、パワーポイント、OHPが共に11.1%であった（図3参照）。そして「視聴覚教材の効果について」の間では効果的と回答した学生が多かったのはCCDカメラ72%で、次に効果的が多かったのはビデオ55%であった（図4参照）。



#### IV 考察

現在の予防的歯石除去実習の授業展開は、まず講義では当日の講義内容（一部を記述する）プリントを配布し、それを説明する形式で行っている。またビデオ、スライドのある項目についてはそれらも活用している。

その次の段階である基礎実習、模型（マニキン）実習では、実習のプリントを配布し説明した後、デモンストレーションを行い実習を開始する。デモンストレーションは、実習に参加する

教員の人数によるが通常教員一人に対し学生が10～15人である。その後学生の操作実習になり、教員が机間巡視して個別に学生指導をしていく。

今回のアンケート調査結果から、学生が視聴覚教材の利用についての意識が分かった。まず視聴覚教材の利用頻度については、66%と半数以上の学生が多く利用して欲しいというよりは、むしろ理解が深まるように適度に利用して欲しいと考えていることが分かった。

視聴覚教材について伊藤は、学生の知的興味や学習意欲を呼び覚ます映像メディアの利用は、動機付けとして効果的であると述べている。<sup>(3)</sup> またビデオ等を活用して授業を行ったことで、目指す職業の役割が学べ学習意欲が湧いたり、ビデオにより理想的なものを具体的にイメージできた<sup>(4)</sup>との報告や、さまざまなメディアを活かすことで学習の相乗効果が生じる<sup>(5)</sup>との報告がある。これらの報告からも視聴覚教材を利用することは、学生にとって有効であると考えられる。また学生の回答から好きな視聴覚教材は、ビデオが一番多くで36.1%であり、次いでスライド22.2%、CCDカメラ16.7%であった。現在使用している市販ビデオは、臨床の場面での操作を見ることができるので臨場感があり臨床での操作の意義等を含めて明確化できると考える。

また学生が効果的な視聴覚教材と考えているものは、CCDカメラが72%と最も高く次いでビデオが55%であった。そして効果がない、あまり効果がないと回答した割合が高かった視聴覚教材は、ビデオである。これは教員のビデオの利用方法により、効果的にもなるし効果がなく意味のないものにもなってしまうということである。つまりいくら教育効果が見込まれる教材だからといって闇雲に利用すればよいというわけではないということである。視聴覚教材は、効果的な場面に適切なものを利用していくことが重要である。そして教員はいつ、なにを、どのようにみせるかという詳細な教授計画を立てる必要があるということである。また与えられた教材は適切であったか、学習者はきちんと理解できたのかなどは、常にフィードバックしていかねばならない。また伊藤は、視聴覚教材の欠点として表現方法が稚拙だったり、的確でないとか何が言いたいかわからない。そして伝えるべき事が伝わらない。また学生もわかった気になるがその実わかっていないということがあると述べている<sup>(3)</sup>。これらの欠点を踏まえて教師の指導や図書、文献などの言語的情報の手助けを借り、問題を抽出し整理、再構築し自らの言葉で表現しようとしていく訓練が必要である。

## V まとめ

今回は、予防的歯石除去実習の相互実習ガイダンス時に使用する自作ビデオの作成を試みた。このビデオの効果については具体的に調査はしなかったが、学生の視聴覚教材についてのアンケートを実施した。その結果現状では、学生のほとんどがある程度のイメージを持つことができていた。視聴覚教材を利用することは学生に有効であるが、効率的に使われていたかどうかは定かではない。そしてさまざまな視聴覚教材を利用することは、学生にとって有効であることを念頭に入れつつ、効果的な場面に適切なものを利用し見せていくことが大切であることがわかった。そのためにも今後教員は、適切な教材作成、入念な授業計画、説明能力の向上等学生が、授業目的を達成できるように努力して行かねばならない。今後も続けて視聴覚教材については検討し、自作の教材も作成し授業に取り入れていくつもりである。

## VI引用参考文献

1. 喜多村和之訳、ケルズ著、『大学評価の理論と実際』、東信堂、1998,10
2. 静岡県立大学短期大学部自己点検・自己評価委員会、『平成14年度静岡県立大学短期大学部「自己点検・自己評価」報告書』、静岡県立大学短期大学部、2003, 4
3. 伊藤敏朗著、「大学図書館における視聴覚サービス論と映像メディアの特性」日本図書館協会刊、『現代の図書館』Vol.32.No 3、pp 29-32、1994. 9
4. 池本悦子他、「学生がケースカンファレンスを主とした授業をおこなって」、看護展望Vol.58.No.10、pp 106-110、医学書院、2000,10
5. 木村由美著、『「急性期看護」のビデオを用いた授業評価』、神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録、26号、pp.118-125、2003,3

(2004年11月 4 日受理)

